東京レポート

最先端のスマート農業が分かる展示会について

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年10月１日(水)から３日(金)にかけて、千葉県の幕張メッセで農業・畜産総合展「第15回農業 WEEK」（主催：RX Japan 株式会社）が開催されましたので、その一部を紹介します。

１　農業 WEEK の様子

農業法人、生産者、JA、農業参入を検討する企業などが来場する日本最大級の農業・畜産分野の総合展示会です。会場は「国際スマート農業 EXPO」、「国際農業資材 EXPO」、「次世代農業経営 EXPO」、「国際畜産資材 EXPO」、「農業 脱炭素･SDGs EXPO」の５エリアに分けられ、多岐にわたる分野の企業・団体が 351 の出展ブースを設けていました。

２　イノベーションが進む最新のスマート農業

特に会場で注目を浴びていたのは、農林水産省の中小企業イノベーション創出推進事業で開発・実証事業を行うスタートアップが集結した展示ブースでした。

展示のあった13社のうち本県企業は５社で、内容は下表のとおりでした。

スタートアップの展示ブース

企業名	展示内容
グランドグリーン(株) ※名古屋大学発の企業	独自に改良を加えたゲノム編集技術の活用による気候変動対策に資する作物品種の迅速な開発・実証
TOWING(株) ※名古屋大学発の企業	高機能バイオ炭の大規模製造プロセスの開発及び大規模農地実証
(株)豊橋バイオマスソリューションズ ※豊橋技術科学大学発の企業	温室効果ガス排出量削減に資する循環型社会システムの開発・実証（メタン発酵～液肥製造・濃縮の一体化システムの開発）
(株)トクイテン	みどりの食料システム戦略の実現に寄与する大規模有機スマート農場のモデル確立
ListenField(株) ※コンソーシアム代表企業	リモートセンシング･AI･ゲノム情報の活用による次世代育種サービスの開発（スタートアップ３社によるコンソーシアム事業）

また、北海道大学大学院農学研究院の野口教授の講演では、スマート農業技術の最新動向と展望について紹介されました。

講演の中で特に印象に残ったのは、ドローンの撮影画像を用いてデジタルツインにより仮想農場を構築し、その中で様々な圃場環境に合わせたロボットトラクタの作業計画を作成する取り組みです。これにより、実際にトラクタを走らせてデータを取得しなくても、最適な作業計画を作成することが可能となり、省力化・効率化が図られます。

※１　現実世界の環境から収集したデータを用いてデジタル空間で同じ環境をあたかも双子のように再現し、モニタリングやシミュレーションを可能にする仕組み。

※２　対象物に触れることなく、離れたところから物体の形状や性質などを観測する技術。

超省力化や精密化、高品質生産を実現するスマート農業は年々進化を遂げており、このような技術の導入が本県農業の未来像を大きく塗り替えることを期待しています。